

今年度を振り返り、次年度へつなぐ学習指導

平成27年度の教育課程が、あと1か月余りで修了します。4月当初に掲げた学校目標、学年(学級)目標について、それぞれの取組を振り返り、成果と課題を整理する時期です。学習指導についても、以下のチェック表を例に、先生方で振り返ってみましょう。それをもとに、今年度中にできることは改善し、継続することや改善することを整理し、次年度のスタートがスムーズに切れるように、全職員でつないでいきましょう。



【チェック表の例】

始業前	<input type="checkbox"/> 学習に必要な用具をそろえることができる。 <input type="checkbox"/> 忘れずに課題をし、提出している。
授業前	<input type="checkbox"/> 次の時間に必要な用具を出したり身支度をしたりしてから、休み時間をとっている。
授業中	<input type="checkbox"/> 時間の前に、席に着いている。 <input type="checkbox"/> 先生や友達の話を最後まで聞くことができる。 <input type="checkbox"/> 友達の考えについて、「はい」「いいえ」等の反応をすることができる。 <input type="checkbox"/> 学級で決めた発表の仕方に沿って発表することができる。 <input type="checkbox"/> 最後まで課題に取り組むことができる。

コミュニケーション	<input type="checkbox"/> 名前を呼ばれたら返事をするができる。 <input type="checkbox"/> 進んであいさつをすることができる。
ルール	<input type="checkbox"/> 時間を守って行動することができる。 <input type="checkbox"/> 学校での生活のルールを守っている。
整理整頓	<input type="checkbox"/> 決まった場所に、靴や上靴をそろえて置いている。 <input type="checkbox"/> 自分の持ち物を管理することができる。 <input type="checkbox"/> 机の引き出しやロッカーの中の整理整頓ができています。

※引用・参考「低学年生活・学習習慣指導の玉手箱」教育センターHP(研究調査「授業に役立つ実践研究」平成18年度の研究成果「低学年で身に付けさせたい生活・学習習慣」)より

声の広場 第4号の発行に際して、いただいたメッセージの一部を紹介します。(要約引用しています。)

《家庭学習の取組や工夫》について

- 本校でも中学校校区3小中学校で、家庭学習への取組として、「ノーテレビ・ノーゲーム・ノースマホデー」の一斉実施、「家庭学習の手引き」の作成・配付・指導などを行っております。
- 本校(中学校)では、教科ごとに家庭学習の仕方をまとめたカードを利用し、宿題等に取り組ませています。取り組んだ結果を「自分向上シート」(一週間で一枚)に記入させ、毎日提出させています。一週間の取組に対し、保護者と担任からの一言を添えています。

平成27年度《学力向上だより》を発行して…

今年度は西部教育事務所から全5号の学力向上だよりを発行しました。授業の工夫改善に関する内容や西部教育事務所管内の先生方の授業取組、西部型授業等を紹介しました。西部教育事務所のホームページからいつでも閲覧することが可能です。先生方の指導方法の確認や今後の授業改善の一助となれば幸いです。

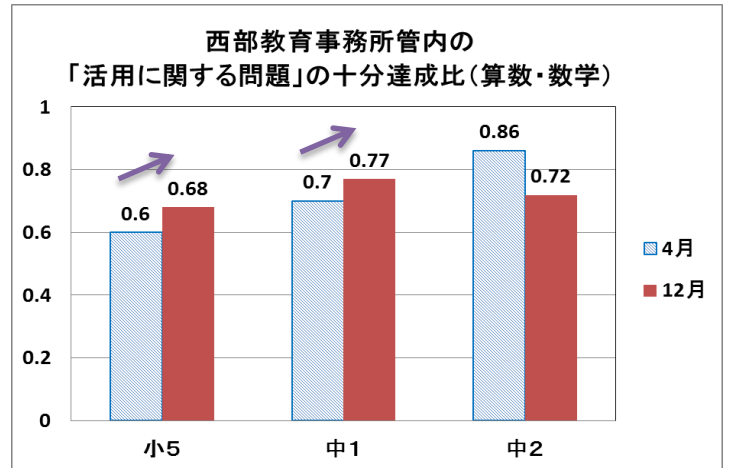
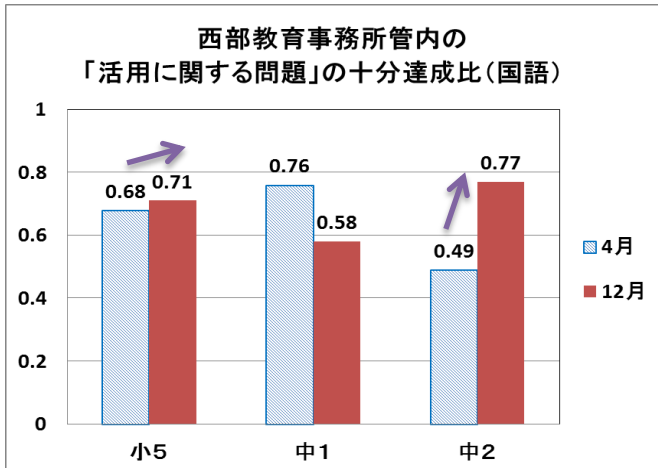
<http://cms.saga-ed.jp/hp/s-kyoikujimusho>

佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]の結果から —「活用に関する問題」について—

佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]結果をもとに、各学校においては「PDCA」サイクルの「C（チェック）」から次の「A（アクション）」に向けた取り組みをされることでしょうか。

管内の結果では、県の「到達基準」に対して、実施した全ての教科で「おおむね達成」の基準を上回りました。その中で、[4月調査]結果の課題の一つだった「活用に関する問題」について、小5、中1、中2の結果を比較しました。[4月調査]結果に比べ[12月調査]結果では、中1国語と中2数学以外は、伸びていることがわかります。各学校で、授業改善や学力向上に取り組まれた成果であるといえます。

しかし、課題として、正答率が低く、無解答率が高かった問題があり、今後さらに改善が望まれます。



正答率が低く、無解答率が高かった「活用に関する問題」(一部)

【中1国】(正答率 31.2%、無解答率 26.8%)
情景描写に注意して読み、登場人物の心情を捉え、自分の考えをもつ。

【中2国】(正答率 34.0%、無解答率 29.6%)
文章に表れている考え方について、自分の考えをもつ。

【小5算】(正答率 32.7%、無解答率 10.4%)
示された考え方が正しいかどうかを問題集の問題数と3日間で解いた問題数を基に判断し、その理由を説明することができる。

【中1数】(正答率 20.6%、無解答率 34.9%)
事象の変化を読み取り、グラフや式を基に、求め方を数学的な表現を用いて説明することができる。

共通しているのは、条件に沿って自分の考えを説明する(まとめる)ことです。

【小6社】(正答率 25.6%、無解答率 20.4%)
資料を基に、岩倉使節団と遣隋使や遣唐使の共通の目的について考えることができる。

【中2社】(正答率 23.3%、無解答率 22.0%)
資料を基に、大阪が「天下の台所」とよばれ、経済の中心として繁栄した理由を説明することができる。

【小5理】(正答率 23.4%、無解答率 9.0%)
空気の温まり方を基に、温められた空気の動き方を考え、説明することができる。

【中2理】(正答率 18.9%、無解答率 10.9%)
木炭を燃焼させる場面について、化学変化の知識を活用して、燃焼後の質量が変化した理由を説明することができる。

【中1英】(正答率 50.1%、無解答率 15.6%)

【中2英】(正答率 38.1%、無解答率 17.1%)
質問の答えを適切な表現を用いて書く。

授業で

- 見通しを持ち、習得したこと使って、自分の考えを書く。
- 順序を表す言葉を使って、友達に自分の考えを説明する。
- その時間に学習した内容に関するキーワードを使って、自分でまとめる。

その手立てとして、

- キーワードやヒントカードを提示する。
- まとめ方の文型や話し方の話型を提示したり、TTでモデルを示したりする。
等を取り入れて、繰り返し指導していくことで、力をつけていきましょう。

